



みなさんの ポッポおひさま発電所



サポーター通信 No.2 2007.7.1

ポッポおひさま発電所がみなさんのご協力でうぶ声をあげてから1年が立ちました。

この1年間、ポッポおひさま発電所は順調に発電し

つづけました。また、地球環境をめぐるさまざまな動きもありました。

ご報告しながらふり返ってみたいと思います。

ポッポおひさま発電所

発電好調！ 温室効果ガス8%以上減りました。

みなさんのご協力で昨年2月末に完成した太陽光発電所＝ポッポおひさま発電所は、今年3月末まで12,149kWhの電気を発電しました。おひさまのエネルギーから直接得られたこのクリーンな電気は、火力発電所で発電された電気に比べて8.3t-CO₂の温室効果ガス^{*1}を減らしたことになるのです。元気に育つ園児たちを見守りながら、ポッポおひさま発電所は静に、しかし片時も休むことなく、地球環境を守り残したいというみなさんの願いを背負って働き続けてくれました。

ご参照ください。

グリーン電力発電設備に認定

発電された電気の約8割は保育園で活用され、2割は関西電力を通じて一般家庭にも使われています。

発電にともなう収入約20万円は、建設協力金を拠出いただいているみなさんへの返済にあてられます(1口につき5千円)。

ポッポおひさま発電所は昨年、グリーン電力認証機構から「グリーン電力発電設備」として認定されました。ポッポおひさま発電所の生み出したクリーンな電力の持つ環境価値をグリーン電力証書という形で販売することができるようになりました。

月	稼動 日数	日射量 (kWh/㎡)			発電量 (kWh)			
		計画	実績	増減率	計画	実績	増減量	増減率
2	7	22.3	22.6	1.02	176.3	184.1	7.8	1.04
3	31	120.9	118.6	0.98	949.0	987.8	38.8	1.04
4	30	133.5	117.4	0.88	1,022.0	997.6	▲ 24.4	0.98
5	31	154.7	134.5	0.87	1,156.0	1,113.9	▲ 42.1	0.96
6	30	133.8	126.8	0.95	970.0	1,045.0	75.0	1.08
7	31	151.0	108.1	0.72	1,072.0	873.5	▲ 198.5	0.81
8	31	150.0	158.1	1.05	1,055.0	1,217.6	162.6	1.15
9	30	117.6	123.8	1.05	848.0	975.9	127.9	1.15
10	31	110.4	113.8	1.03	826.0	880.7	54.7	1.07
11	30	90.0	84.8	0.94	689.0	676.6	▲ 12.4	0.98
12	31	83.4	70.8	0.85	658.0	578.7	▲ 79.3	0.88
1	31	88.0	87.5	0.99	708.0	720.4	12.4	1.02
2	28	89.0	97.7	1.10	705.0	806.6	101.6	1.14
3	31	120.9	131.3	1.09	949.0	1,090.6	35.2	1.15
計	403	1565.5	1495.8	0.96	11,783.3	12,149.0	365.8	1.03

高まる地球温暖化の懸念

今年になって国連のIPCC^{*2}から地球温暖化が確実に急速に進行しているという報告書が相次いで発表され、この問題への関心が高まっています。今を自然エネルギー活用の意義を広める好機として、宣伝を強めたいものです。国連の報告については4面で解説していますので、

*1 温室効果ガス＝二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)、一酸化二窒素(N₂O)、フロン類などの大気中の気体で、赤外線を吸収し地球を暖めることが分かっている。温室効果の大きさは気体によって異なるが、二酸化炭素の温室効果を1として各気体の効果をその倍数で表すことによって、温室効果ガス全体の量を二酸化炭素に換算して表す方法が取られている。t-CO₂はこの換算量を表す単位である。

*2 IPCC＝気候変動に関する政府間パネル。UNEP(国連環境計画)とWMO(世界気象機関)が1988年に共同で設立、各国から2000人以上の科学者が参加し、気候変動に関する研究成果を取りまとめている。

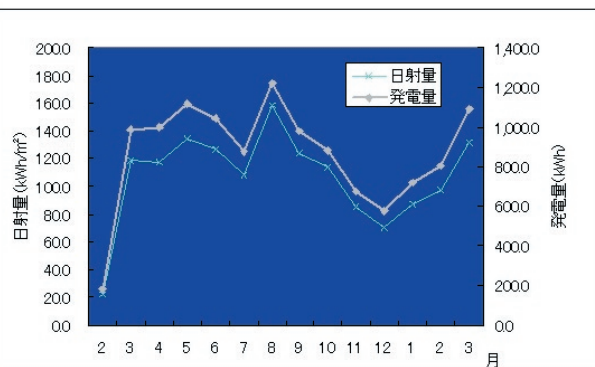
特定非営利活動法人 自然エネルギー市民共同発電

発行責任者：早川光俊

〒540-0026 大阪市中央区内本町2丁目1-19-470

Tel:06-6910-6301, Fax:06-6910-6302

E-mail:wind@parep.org, URL:http://www.parep.org/



ポッポおひさま発電所 この1年

2月22日 関西電力系統連系、発電開始
 3月11日 点灯式
 24日 NP0 第1回通常総会
 6月18日 ポップ保育園バザー
 7月28日 第48回自治体学校で報告
 9月15日 環境技術学会で報告
 10月20日 サポーター通信 No.1 発行

11月25日 ポップおひさま発電所視察会
 26日 鴻池ファミリーフェスティバル
 27日 グリーンサンタ来園
 12月23日 ポップ保育園もちつき大会
 3月10日 ポップおひさま発電所見学会
 5月15日 NP0 第2回通常総会



手編み風車やてんぷらなどの模擬店



大阪女子短大保育科から友情出演



山陰の野菜と塩干もの、いつも好評（賀露おやじの会）

鴻池ファミリーフェスティバルは、ポップ保育園のある地域のお祭りです。ポップ保育園のお勧めでポップおひさま発電所も参加させていただきました。

発電所実現のとき「地元のたくさんの方々に物心両面でお世話になりました」の感謝の気持ちを込めて、その後の経過報告をさせていただくのが第一の目的。あわせて手編み風車、大学イモ、野菜てんぷらなどの安い模擬店を出して地元へ恩返しするのが第二の目的です。鳥取の賀露おやじの会が山陰の野菜や塩干ものを積んで駆けつけてくれたり、大阪女子短大保育科の生徒さんも友情出演してくれるなど、本当にありがたかったです。15人のサポーターが頑張りました。

デンマークから環境親善大使グリーンサンタさんがポップ第2保育園を訪問。大阪府の地球環境マスコット“モットちゃん、キットちゃん”も一緒に来てくれました。園児たちは一足早いクリスマスに大喜びでした。

「なんでポップ保育園に来たの？」

「おひさま発電をつけてるし、環境に熱心な子どもたちに会いにきたんじゃないかな」

グリーンサンタさん、モットちゃん、キットちゃん。こんにちは～



プレゼントもらってサンタさん大喜び



ポッポおひさま発電所と園児たち

昨年11月の土曜日にポッポおひさま発電所視察会に参加しました。ポッポ第2保育園の年長さんの部屋の予定表に「20にち(げつ)たいようこうのはなしをきく」と書かれ、太陽光発電の説明図が貼られていました。(右上)

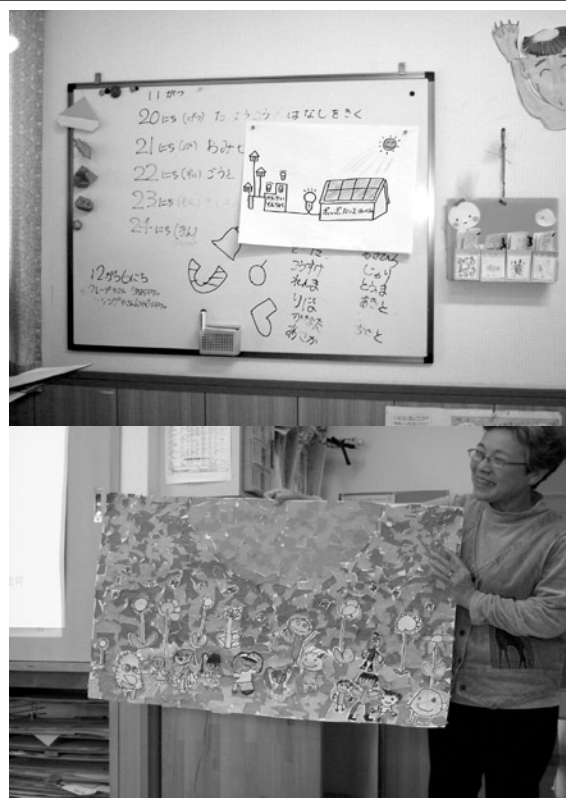
説明に立った岡園長が「デンマークのグリーンサンタが27日に来園することになりました。子供達にそのことを伝え、太陽光発電のことを話した結果、園児がこれを作りました」と立派な貼り絵を披露(右中)されたので、なるほどと納得しました。学齢にもならない子どもたちに、環境や太陽光発電といってもなかなか難しいけれど、「おひさまの大きな恵みを子どもたちに伝えたい」という園の思いを目の当たりにして、大変うれしく思いました。

また、サンタさんに聞いてもらうのだと「ぼくら太陽の子」の歌詞も掲示されていました。(右下)

いい歌だなアと思って見ているとことろへ、丁度こどもが二三人走りこんできたので「どんな歌や、おっちゃんにも教えてや」と話しかけると大きな声で歌ってくれました。「アー寄付に協力させてもらって良かったナー」という思いがこみ上げて来ました。

園の取り組みに大きな拍手を送りたいと思います。

(大谷恒夫 / 自然エネルギー市民の会々員)



ぼくら太陽の子
はしつてごらんよ
かぜをきつて
ひろいだいちが
おおきく ゆれるんだ
みんなでいれば
くやしいこともあるけれど
みんなのなかで
なみだもでるけれど
ぼくらはたいようのこ
おひさまのこ
みんなでてをつなげば
なんでもできる

市民共同発電所 全国フォーラム2007 in おおさか

と き : 2007年9月22, 23日
と ころ : 大阪経済大学



主催 : 市民共同発電所全国フォーラム2007実行委員会
共催 : 大阪経済大学 地域活性化支援センター

全国に市民共同発電所をひろげよう！

市民共同発電所全国フォーラム2007in おおさか

ポッポおひさま発電所のような市民が協力して作った自然エネルギー発電所は、全国に160ヶ所以上あります。全国の市民共同発電所の代表が集って経験を交流し、これから作ろうとする人々が学べる場として「市民共同発電所全国フォーラム」が開催されています。5回目にあたる今年は大阪で開催されます。

今年のメインテーマは「自然エネルギーを活かしたまちづくりをめざして」となっています。市民と事業者、行政の三者のパートナーシップによって、自然エネルギーの普及を進めている事例報告など、シンポジウムと4つの分科会を開催します。詳細は、同封の案内をご参照下さい

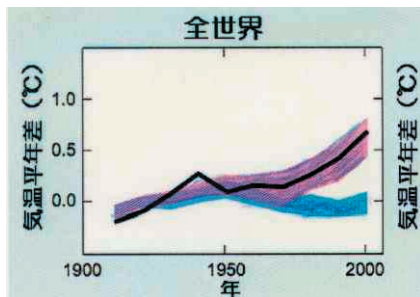
今や温暖化は地球全体の脅威に

今年2月、国連機関であるIPCC^{*1}の第4次報告書（以下、報告書）が発表され世界中が騒然となりました。地球温暖化は確実に起こっていると断定するとともに、その原因は人間が排出する温室効果ガス^{*2}であるとほぼ断定したからです。温暖化の主な原因を人間活動とすることに懐疑的な見方が、これまで一部にありました。アメリカのブッシュ政権がそうですが、わが国でも財界を中心に、炭素税の導入など効果的な温暖化対策に消極的な人々もその論拠としてきました。こうした懐疑論に世界の科学者の研究成果がとどめを刺したのです。

2001年の第3次報告書での「可能性が高い」（likely, 66-90%）という表現から、今回「可能性がかなり高い」（very likely, 90-99%）という表現に、厳密な評価を通じて変更されました。

人間活動による地球温暖化の証拠

コンピューターによって、自然要因による気温上昇と人間活動による気温上昇をシミュレーションしたものと、実際に観測された気温とを比較する。自然要因のみでは実際の観測値と大きくズレてしまうが、人間活動を加味すると観測値によく一致する結果が得られる。



黒線：観測値

薄色帯：自然要因+人間活動でのシミュレーション結果

濃色帯：自然要因のみでのシミュレーション結果

（第1作業部会報告書要約図SPM-4から一部抜粋）

過去100年間で世界平均気温が0.74℃上昇

報告書は、1906～2005年の100年間に世界の平均気温は0.74℃上昇したと述べています。大したことないじゃないか、と思われるかもしれませんが、過去数千年間は100年で0.1℃程度の変化しかなかったのです。

それが、18世紀後半以後の人間活動の活発化とともに急激な平均気温の上昇が起こっているのです。しかも最近50年間だけで見ると、上昇速度はさらに倍化していると報告されています。

危惧される温暖化の影響さらに顕著に

今年4月に発表された温暖化の影響に関する報告書では、以下のように評価しています。

- ①気候変化がすでに世界中の自然と社会に影響を与えている。
- ②極地や高山の氷河の減少、永久凍土地域の地盤不安定化とこれに伴う生態系の変化が現れている。
- ③水資源について、今世紀半ばまでに高緯度地方では

10～40%増加し、中緯度、乾燥地域では10～30%減少すると予測される。

- ③気温上昇が1.5～2.5℃を超えた場合、生物種20～30%の絶滅のリスクが増加する可能性が高い。

- ④食物について、気温上昇1～3%では潜在的な増産の可能性もあるが、それを超えて上昇すれば減少に転じると予測される。

- ⑤2080年までに、海面上昇により、毎年の洪水被害者が追加的に数百万人増えると予測される。

これらの予測は楽観的すぎるという意見もありますが、これでも地球上の生物が過去に経験したことのない急激な生存環境の変化であることは変わりありません。

こうした変化に適応できず最初に被害を被るのは“弱者”なのです。

温暖化の最大の被害者は“弱者”

生物界では、適地への移動速度の遅い植物、サンゴなど温度変化に弱いもの、シロクマのように食物連鎖の上位生物などにまず被害が出ますが、生態系の崩壊は全ての生物の生存を脅かすものであり、人間も例外ではありません。

人間社会では、南の島国、アジア・アフリカのデルタ地帯に住む人々が最初の被害者です。高山の氷河融解で巨大化する氷河湖が決壊すれば、逃げる術を持たない貧しい人々に大きな被害がでるでしょう。化石燃料を独占し、温暖化の主因を作ってきた先進国は、その資金力と技術力で適応し生き残ろうとします。先進国の中でも、貧しい人々の適応手段は限られてきます。

国連安全保障理事会は4月に、地球温暖化問題についてはじめて公開討論を行いました。この問題が国際紛争の火種になることは十分ありうるのです。

2℃の上昇が限度。まず先進国が断固たる行動を。

地球温暖化の問題は、強者の論理では解決できない問題です。全て生物、国がパートナーとしてこの問題に対処しなければなりません。しかし、その責任の重さは自ずから異なります。人間そして先進国、豊かな人々がより重い責任を果たさなければ、この問題は解決できません。

わたしたちNGOグループは、産業革命以前からの温度上昇を2℃以下（現在約0.7℃）に抑えるという明確な目標をもって、先進国が率先して取り組むことを主張してきました。

太陽光発電が日本のパネルメーカーを育てたように、地球温暖化対策は経済の質を変え新たな産業を生み出します。地球温暖化は私たちにくらしや社会のあり方を変えることを求めているようです。

^{*1} IPCC、^{*2} 温室効果ガスの解説は、1面右下に掲載しています。

